

みやわし

宮里老人クラブ新聞

第7号

会長：宮城武松
題字：喜屋武磯江
編集：山下博實

わたーがんじゅーさ～ コロナに負けるな！

コロナの感染が記録を塗り替えています。高齢者が罹るとダメージが大きい。みやわし会でも恒例の行事をほとんど見送って来ましたが：



ラジオ体操風景[宮里公園]

宮里公園の毎朝のゲートボールもゆんたくも、止む無く見送る対象となった。

「でも籠ってばかりでは体力も知力も衰えてしまうよ」。そんな意見が出た。なんとかしようとしたアイデアが、ラジカセが一台で出来るラジオ体操だ。広い公園で充分に間隔がとれる。自分の能力にあわせてまよんべんなく体を動かせる。動きは学校でみんな沁みついていて。すぐに賛同が得られた。今年3月初めのことだ。

日曜日を除く毎日、10～20名の方がマスクを付けて集まって来る。まず検温、健康チェック。午前9時、ラジカ

きょうのひと笑い (ネットより)

◆ ぼあさんの手づくりマスク 息できず

◆ 円満の秘訣 ソーシャルディスタンス

◆ 武勇伝 俺の話は無観客



鳥袋政子さん
手作り絵てがみ



鳥袋春子さん 喜屋武磯江さん 東江信雄さん

セから「みなさん、おはようございます」と元気な声。なじみの音楽が流れると、公園の高い枝からインヒョドリも鳴きだすからおもしろい。体操の後、せっかく集まったのだから頭の体操もと、新屋千代子さんがお手玉遊びを提案した。お手玉は松田竹子さんの手作り。
女性陣は昔取った杵柄、体が覚えている。数え歌で、両手で2つ、片手で2つ、両手で3つ。

歩け歩けで がんじゅーさ～

若夏公園をグーグルマップで見ると、公園から四方にまっすぐ緑色のラインが伸びています。ラインは、美里公園や美里なかばる公園それから宮里第二公園に繋がっています。遊歩道を示すラインなのですね。



大盛英俊さん 松田竹子さん 新屋千代子さん

妙技に拍手が沸く。ワクチンの接種率も進んできた。みやわし会の皆さんが安心して集える日も、もうそう遠くない。それまで元気知的でいようと、静かな戦いが続いている。



サガリバナ
[若夏公園]

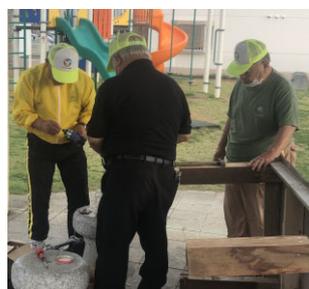
早朝の遊歩道は、マスク姿の歩け歩けの人たちのあいさつの声が行き交う。今の季節、街路樹のサガリバナが妖精のように垂れ下がる。嗅ぐと妖艶な香り。まだ若木で、これからは毎年咲き続けてくれることが期待できる。

緑色のラインに繋がるとの公園も、手入れがよいく行き届いている。宮里第二公園は宮里地域にあり、地区の方が清掃と整備を引き受けている。宮城武松さん、上江洲安輝さん、東江信雄さんの三人。みやわし会のメンバーでもある。毎週火曜日と土曜日の早朝、公園内とトイレを清掃。「ここのトイレはいつもきれいだから、わざわざ遠くから来る



公園の清掃と整備を担う勇士
[宮里第二公園にて]
左から
宮城武松さん
上江洲安輝さん
東江信雄さん

「のですよ」。そんな嬉しい話も聞かれる。先日は東屋のテーブルがかさ上げされ、上板が新しくなった。子供たちが不自由そうにかがんで宿題を広げていたからだ。沖縄市の公園課にも了承を取ったとのこと。アイデアも作業も小気味がいいほど早い。心の暖かさも伝わってくる。



思い出いっしょ



ムーチーの思い出

浜田洋子

私たちが幼いころ、バーバーの家に集まってみんなでムーチー作りを楽しみました。まずカーサを洗い、粉を人数分に小分けし、練る作業。

「粘土みたいだね」「うん、うふふ。」

練ったものは大きめに分け、細長の形に。大きい



い方はカムーチーにそれぞれ包み、カーサを広げ、包んで紐で結びます。最後に蒸気で蒸して、ムーチーの出来上がり。

「みんなよく頑張ったね。さあ、次はお楽しみみの試食だね。」と、バーバー。

「自分で作ったムーチー、美味しいね。最高！」

「みんなでムーチーをもっとたくさん作ればよかったですね。いっぱい食べられるでしょう。」「そうだよね。」

それからムーチーの話になりました。

「大きなムーチーはムーチーと言って、神様にお供えて『皆が健康で無事に過ごせますように力を与え』

アカバナの写真を眺めて

山城正夫



カメラ好きの知人から贈られた一輪のアカバナ（仏桑華）の写真を眺めている。どこにでも咲いているアカバナではあるが、何か私の心に染みるものがあつた。そ

んな思いが遠い昔の記憶に私を誘った。幼いころ、アカバナはどこの垣根にも咲いていた。女の子たちがその花びらを縦に裂き、ねばねばの液で、花びらを鼻やほおに張って、笑顔で遊んでいた。素材でかわいかった。たまには、男の子も遊びに加わった。いまだきには、見

当たらぬ風情である。アカバナは、私を熱き青春時代へとよみがえらせる。あの深紅は、真っ赤に燃える太陽と情熱を表わし、乙女の激しい恋心を表象しているようである。うら若き少女の黒髪に差した一輪のアカバナは、まさしく南国沖縄の深い情愛に満ちた乙女の姿、そのものだ。

アカバナ
「よ、おまえは県花デイゴに勝るとも劣らぬ花だ。年がいてもなく、恋だの、愛だの、と語る情熱も冷めたのに。「いや、心の持ちようだ。頑張れ、頑張れ」と写真のアカバナがほほ笑んでいる。



気を払うお守りとして吊り下げます。

残りのムーチーはそれぞれ歳の数ほどに紐で吊るせるようになります。また食べた後のカーサは十字に結んで、出入り口に邪

帰り際にバーバーと「楽しかった、また作ろうね。」と。それでも成長とともに作る機会は無くなってきました。

今と昔では、生活の様子もずいぶんと変わりました。昔は一番寒い時期になるとあちこちからサンニン

の香りが漂ってきていました。その香りで、母といっしょにカーサ採りに行ったこと、もち米をうすで碾いてムーチー作りをしたことを懐かしく思い出します。

今では私が、思い出に浸りながらひたすらにムーチーを作り続けるバーバーになりました。

?私ほだれでしょう?



写真は
喜屋武磯江さん
宮城武松さん

あとがき

みやわし第7号をお届けします▼思い出いっしょに投稿いただいた山城正夫さん、浜田洋子さん。若き日の写真を提供いただいた方々に感謝いたします。写真はAI技術を使ってカラー化しました▼コロナが猛威を振るう中、辛抱の日々が続きます。ワクチンの予約と接種がやると始まりました▼順当に撰取が進むと、米国や英国の前例のように劇的な効果が期待できます。その効果を、かたずをのんで見守りたいとおもいます。
広報担当：山下